



**堺化学工業株式会社**

**堺化学工業株式会社**

2022年3月期第2四半期決算説明会

2021年11月29日

## イベント概要

---

[企業名]	堺化学工業株式会社		
[企業 ID]	4078		
[イベント言語]	JPN		
[イベント種類]	決算説明会		
[イベント名]	2022 年 3 月期第 2 四半期決算説明会		
[決算期]	2021 年度 第 2 四半期		
[日程]	2021 年 11 月 29 日		
[ページ数]	33		
[時間]	15:30 – 16:27 (合計：57 分、登壇：29 分、質疑応答：28 分)		
[開催場所]	インターネット配信		
[登壇者]	2 名		
	代表取締役社長 執行役員	矢部 正昭	(以下、矢部)
	常務取締役 執行役員	中西 敦也	(以下、中西)

## 登壇

司会：本日はご多用のところ、堺化学工業株式会社、2022年3月期中間決算説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

定刻となりましたので、ただ今より説明会を開催いたします。今回の説明会もWeb上でのライブ形式の説明会とさせていただきました。

本日の予定でございますが、初めに、社長の矢部より、本年5月11日に発生しました湯本工場、爆発・火災事故につきましての、その後の状況をご説明申し上げます。

## 湯本工場 爆発・火災事故に関して

### 1. 発生日時 / 場所

2021年5月11日 / 湯本工場 亜鉛末製造工場

### 2. 人的被害

協力会社従業員4名 重軽傷 ⇒ 全員退院済み

### 3. 事故調査委員会の進捗

社外から3名の有識者を招聘し、6月5日に設置。

現在までに、計5回事故調査委員会を開催。

本年内に原因究明および報告書がまとめられ、来年1月中にご報告できる見通し。



### 4. 亜鉛末事業からは撤退

2021年3月期の亜鉛末年間売上高：約13億円

### 5. 2022年3月期通期連結業績への影響額（税引き前利益）

300百万円程度の見込み



SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

2

矢部：社長の矢部でございます。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

去る5月11日に、当社湯本工場で発生いたしました爆発・火災事故におきまして、株主をはじめ多くの方々に多大なるご迷惑、ご心配をお掛けしましたことを、あらためましておわび申し上げます。

事故発生から約半年がたちましたが、その後の経過につきまして、簡単にご説明申し上げます。入院されていましたが負傷者1名も既に退院されまして、順調に快方に向かっております。

事故原因の究明につきましては、社外の3名の有識者を招聘し、事故調査委員会を6月5日に設置、現在まで計5回、事故調査委員会を開催しております。本年中には、原因究明および報告書をまとめ、来年1月に報告できる見通しでございます。

本件による損失額は、当初公表している約3億円から大きく変わらない見込みでございます。本件の反省のもと、より安全管理を今後強化していく次第でございますので、ご理解のほど、よろしくお願い申し上げます。

## 本説明会のポイント

### ■ 2022年3月期中間決算概要

- 売上に関しては、電子材料を中心に各事業が好調に推移したが、新収益認識基準の適用により減収となった。
- 営業利益に関しては、電子材料、有機化学品分野を中心に好調に推移したので、大きく伸ばした。
- 化粧品材料に関しては、新型コロナウイルス感染拡大による外出自粛などの影響が続き、前年同期よりも低調に推移した。

### ■ 2022年3月期業績予想

- 電子材料、酸化チタンが引き続き堅調に推移する見通しであり、現時点では、当期11月に上方修正した業績を見込む。
- 年間配当は1株当たり70円を予定。（中間35円 期末35円）  
※前期実績は中間配当15円のみ



**司会：**では、決算説明会に移ります。本日の決算説明会のポイントにつきましては、スライドに記載のとおり、決算概要で3点、業績予想で2点ございます。

その詳細につきましては、IR担当である常務取締役の中西よりご説明申し上げ、その後、社長の矢部より、最近のトピックスについてご説明申し上げます。

最後に、質疑応答の時間を設けており、Zoom ウェビナーの挙手機能を利用し、皆様のご質問をお受けいたします。詳しい方法につきましては、質疑セッションの冒頭でご説明申し上げます。

なお、終了時間は 16 時半を予定しておりますので、よろしくお願い申し上げます。

それでは、中西常務、お願いいたします。

## 2022年3月期中間業績概要（対前年同期）

金額単位：百万円

	2021.3 2Q		2022.3 2Q		増 減	
		売上高比		売上高比		
売上高	40,244	—	39,905	—	▲ 338	▲0.8%
営業利益	1,597	4.0%	4,356	10.9%	2,759	172.8%
経常利益	1,219	3.0%	4,599	11.5%	3,380	277.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	558	1.4%	3,180	8.0%	2,622	469.8%

### ◆ 売上高

電子材料を中心に売上を伸ばしたが、新収益基準適用により、減収となった。

※新収益認識基準適用前：47,484百万円

### ◆ 営業利益

電子材料を筆頭に、衛生材料以外の各分野で増益となり、前年同期比172.8%増の増益となった。



SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

6

中西：IR 担当の中西でございます。よろしくお願いいたします。

まず、2022年3月期上半期の業績概要を説明申し上げます。当期の売上高は399億500万円で、前年同期比マイナス3億3,800万円、0.8%の減収です。しかし、この数字は新収益認識基準でございますので、昨年度までの旧基準では474億8,400万円、プラス72億4,000万円となり、18%の実質増収でございました。

営業利益は43億5,600万円で、前年同期比プラス27億5,900万円、172.8%の大幅な増益となりました。経常利益は45億9,900万円と、前年同期比プラス33億8,000万円、率にして277.2%となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は31億8,000万円と、前年同期比でプラス26億2,200万円、469.8%の増益となりました。

## 事業別売上高・営業利益

金額単位：百万円

		2021.3 2Q	2022.3 2Q	増 減	
化学事業	売上高	36,299	35,809	▲ 490	▲1.4%
	営業利益	2,290	5,101	2,811	122.7%
医療事業	売上高	3,945	4,096	151	3.8%
	営業利益	242	233	▲ 9	▲4.0%
全社費用	売上高	—	—	—	—
	本社部門費	▲ 936	▲ 977	—	—
合計	売上高	40,244	39,905	▲ 339	▲0.8%
	営業利益	1,597	4,356	2,759	172.8%



SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

7

次に、事業別の売上高・営業利益をご説明いたします。

化学事業の前年度比売上高は、358億900万円、マイナス4億9,000万円、1.4%の減収でございます。これも、先ほど申し上げました、新収益認識基準の影響でございます。ただし、営業利益は51億100万円、122.7%、28億1,100万円の増益となりました。

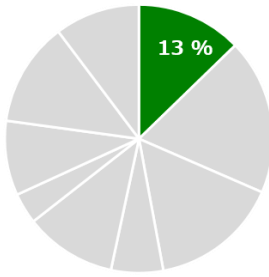
医薬事業に関しましては、後ほどご説明いたしますけれども、前年度売上高は、40億9,600万円、プラス1億5,100万円、3.8%の増収。営業利益は2億3,300万円、900万円のマイナス、4%の減益でございました。

本社部門費ですが、9億7,700万円、プラス4,100万円と、経費はやや増加しております。これは、売上高増に伴う運送費を中心に増加いたしました。旅費交通費等の経費を抑え、増加を最小限にとどめました。



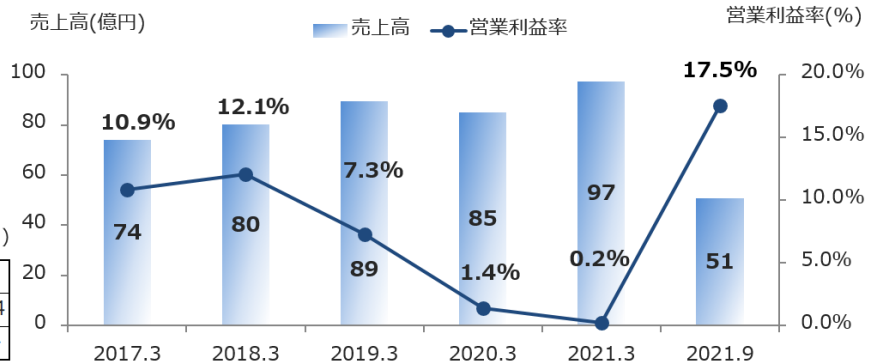
# 電子材料

化学



● 中間期比較 (金額単位：百万円)

	2020.9	2021.9	増減(%)
売上高	4,525	5,086	12.4
営業利益	▲ 117	892	-



## 2022年3月期中間期のポイント

**\* 新収益認識基準適用により ▲1,022百万円 売上減**

- 積層セラミックスコンデンサ向け誘電体（チタン酸バリウム）および誘電体材料（高純度炭酸バリウム）とともに、車載向けや5G基地局向け、通信機器向けなど全般に好調に推移し、売上・営業利益ともに増加した。
- **前年同期比 売上高 +561百万円(+12.4%)、営業利益 +1,009百万円**

9

それでは、各サブセグメント別の業績に関してご報告申し上げます。まず、電子材料でございます。

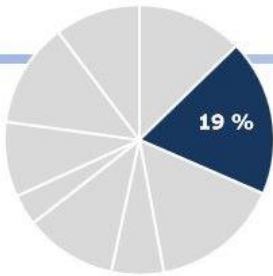
前期の第4四半期からの好調さを引き継ぎ、誘電体、誘電体材料ともに好調でございました。増収増益でございます。

新収益認識基準前では、前年同期比35%の増収、これは車載、5G基地局向け、民生用の汎用品まで、ほぼ全末端製品にわたり好調で、グループ全体の好業績を牽引しております。

前年同期比売上高は、プラス5億6,100万円、12.4%増収の50億8,600万円、営業利益は8億9,200万円と、大きく黒字転換を果たしております。10億900万円の増益でございます。

既存設備はほぼフル稼働の状況で、単位当たりの固定費が大きく低下したことが、営業利益のV字回復の源となっております。

## 酸化チタン・亜鉛製品



## ●中間期比較 (金額単位：百万円)

	2020.9	2021.9	増減(%)
売上高	6,229	7,491	20.3
営業利益	239	461	92.9



## 2022年3月期中間期のポイント

\*新収益認識基準適用により ▲87百万円 売上減

- ▶ 酸化チタンは、食品包装に使用されるグラビアインキ向けを中心に各用途全般に堅調に推移し、売上・利益ともに増加した。
- ▶ 亜鉛製品は、タイヤ向け酸化亜鉛が堅調に推移し、亜鉛建値の高騰も相まって、売上・利益ともに増加した。
- ▶ 化粧品材料の超微粒子酸化チタン・酸化亜鉛は、海外の都市封鎖や外出自粛により、化粧品や日焼け止めの需要が落ち込み、売上・利益ともに減少した。
- ▶ **前年同期比 売上高 +1,262百万円(+20.3%)、営業利益 +222百万円(+92.9%)**

※亜鉛末製造工場爆発事故に関わる費用：143百万円を特別損失で計上済み



SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

9

次に、酸化チタン・亜鉛製品でございます。

酸化チタンは、グラビアインキ向けを中心に、期を通して順調でございました。大きな設備トラブルもなく、生産が安定したこと、春先から実施している値上げが期の後半には浸透し、単価アップが業績に寄与したことが主な要因でございます。

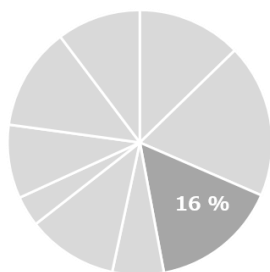
亜鉛製品の売上は、湯本工場の爆発・火災事故により、ほぼ酸化亜鉛のみの売上となっております。亜鉛末の売上がなくなりましたが、亜鉛建値の上昇、タイヤ向けの酸化亜鉛の数量増もあったことから、前年同期比プラス12億6,200万円、20.3%増収の74億9,100万円でございます。

亜鉛末は、事故に係る費用を1億4,300万円、特別損失で計上したこともあり、サブセグメントの営業利益は4億6,100万円、プラス2億2,200万円、92.9%と、ほぼ倍増いたしました。

化粧品用途につきましては、コロナ禍の影響で、需要の落ち込みが続いており、回復にはなお時間がかかる見込みでございます。ただ、下期からは、欧米向けでやや上向きになってきており、現在、既に増産体制の整備はほぼ終了しておることから、将来の需要増にも十分対応可能な状況でございます。

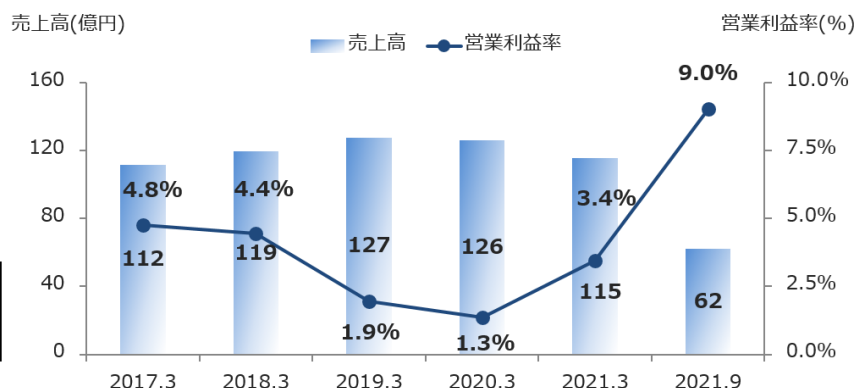


## 樹脂添加剤



● 中間期比較 (金額単位：百万円)

	2020.9	2021.9	増減(%)
売上高	5,315	6,209	16.8
営業利益	28	561	1903.6



## 2022年3月期中間期のポイント

\* 新収益認識基準適用により、▲402百万円 売上減

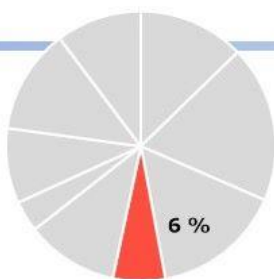
- 国内向けは、住宅や自動車向け、IT関連設備工業板向けなど、全般的に好調に推移し、売上・利益ともに増加した。
- 海外向けは、自動車用途向けPVC安定剤や農業用シート向けハイドロタルサイトが好調に推移し、売上・利益ともに増加した。
- **前年同期比 売上高 +894百万円(+16.8%)、営業利益 +533百万円(+1903.6%)**

11

次に、樹脂添加剤でございます。

樹脂添加剤は、国内需要が塩ビ安定剤で、住宅、自動車、IT関連設備向けの工業板と、広い分野で好調が継続しております。海外におきましても、ベトナム、タイの子会社が堅調。ハイドロタルサイトは、中国向けの塩ビ安定剤用途、農業用シート向けが堅調で、収益アップに貢献しております。

結果、売上高は62億900万円と、8億9,400万円、16.8%の増収。営業利益は、5億6,100万円と、プラス5億3,300万円、1903.6%の大幅な増益となりました。



● 中間期比較 (金額単位：百万円)

	2020.9	2021.9	増減(%)
売上高	4,748	2,506	▲ 47.2
営業利益	212	152	▲ 28.3



### 2022年3月期中間期のポイント

**\*新収益認識基準適用により、▲2,055百万円 売上減**

- 売上は、新収益認識基準の適用により大きく減少した。
- 利益は、インドネシア現地法人での製造販売業が堅調に推移するも、前年同期にあった不織布関連のコロナ特需が当期はなかったため、減少した。
- **前年同期比 売上高▲2,242百万円(▲47.2%) 営業利益▲60百万円(▲28.3%)**



次に、衛生材料です。

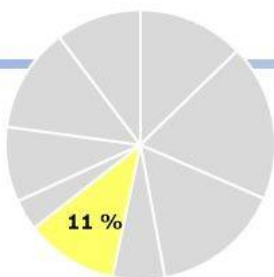
新収益認識基準の影響が顕著なセグメントでありました。プラス、インドネシア現地法人での昨年度のコロナ禍特需がなくなったことで、前年同期に比べ減収減益となっております。

売上高は25億600万円と、マイナス22億4,200万円、47.2%の減収。営業利益は、1億5,200万円と6,000万円、28.3%の減益でございます。

ただし、ベースとしてのこのセグメントの堅調さは維持しております。インドネシア現地法人においても、ほぼフル生産の状況が続いております。

# 有機化学品

化学



●中間期比較 (金額単位：百万円)

	2020.9	2021.9	増減(%)
売上高	3,461	4,422	27.8
営業利益	739	1,291	74.7



## 2022年3月期中間期のポイント

\*新収益認識基準適用により、▲18百万円 売上減

- ▶ チオ製品は、プラスチックレンズ向けが好調に推移し、また、自動車および各種部品製造に使用される潤滑油添加剤向けのリン製品も堅調に推移したことで、売上・利益ともに増加した。
- ▶ 医薬品原薬・中間体の生産受託については、主力中間体の出荷数量が当上期に集中したこともあり、売上・利益ともに増加した。
- ▶ **前年同期比 売上高+961百万円(+27.8%)、営業利益+552百万円(+74.7%)**



SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

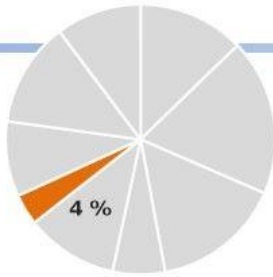
12

次に、有機化学品でございます。

プラスチックレンズ向けを主体としたチオ製品、医薬原薬・中間体受託ともに堅調でございます。特に医薬の受託では、上半期に商流品出荷が集中し、大幅な増収増益の原動力となりました。

売上高は44億2,200万円、プラス9億6,100万円、27.8%の増収。営業利益は12億9,100万円と、プラス5億5,200万円、74.7%の増益でございました。

ただし、下期に関しては、主要製品であるチオ製品は、主要顧客の定期修理による売上ダウン、医薬の受託は、低採算の開発品出荷が下期に集中するため、利益率が低下。このセグメントの業績は、上期に比べると下期はスローダウンする予定でございます。



● 中間期比較 (金額単位：百万円)

	2020.9	2021.9	増減(%)
売上高	1,482	1,486	0.3
営業利益	▲ 66	92	-



## 2022年3月期中間期のポイント

**\* 新収益認識基準適用により、▲254百万円 売上減**

- 樹脂の水素添加工程などで使用されるニッケル触媒は、主要顧客向けの納入時期が繰り延べとなり、売上は減少した。
- 火力発電所やごみ焼却施設で使用される脱硝触媒は、海外向け大型物件の出荷が始まったことで、売上・利益ともに増加した。
- **前年同期比 売上高 +4百万円(+0.3%)、営業利益 +158百万円**



SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

13

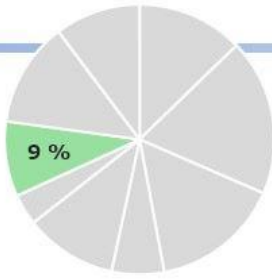
次に、触媒でございます。

ニッケル触媒は、主要顧客の新設備稼働が遅延したことで売上が減少。一方、脱硝触媒は、中国向けの大型案件が通年寄与し、業績を下支えしております。結果、黒字転換を果たしました。

売上高は14億8,600万円、プラス400万円、0.3%の増収。営業利益は9,200万円、1億5,800万円の増益となりました。

# 受託加工

化学



● 中間期比較 (金額単位: 百万円)

	2020.9	2021.9	増減(%)
売上高	2,942	3,589	22.0
営業利益	249	615	147.0



## 2022年3月期中間期のポイント

\* 新収益認識基準適用により、▲250百万円 売上減

- 加工顔料は、自動車や日用雑貨用品向けが好調に推移し、売上・利益ともに増加した。
- 焼成、混合、乾燥等の工程受託は、収益性の高い受託品が増加したため、売上・利益ともに増加した。
- **前年同期比 売上高 +647百万円(+22.0%)、営業利益 +366百万円(+147%)**



SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

14

次に、受託加工でございます。

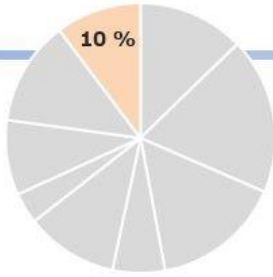
加工顔料は、自動車用途を中心に業況が回復。工程受託は高収益案件が上期を通し安定的に受注できたため、大幅な増収増益となりました。

売上高は35億9,800万円、プラス6億4,700万円、22%の増収。営業利益は6億1,500万円、プラス3億6,600万円、147%の増益となりました。



# 医療事業

医療



●中間期比較 (金額単位：百万円)

	2020.9	2021.9	増減(%)
売上高	3,945	4,096	3.8
営業利益	242	233	▲3.7



## 2022年3月期中間期のポイント

\*新収益認識基準適用により、▲38百万円 売上減

- バリウム造影剤は、昨年から続くコロナ下の健診減の影響を受けつつも、韓国を中心に輸出向けの伸びもあり、売上・利益ともに増加した。
- 「アルロイドG」は、新型コロナの影響はなく堅調に推移し、薬価引き下げの影響はあったが、売上は増加した。
- 医療機器は、販売台数が回復し、売上・利益ともに増加した。
- かぜ薬「改源」など一般用医薬品は、前年同期はコロナ特需がなくなり、コロナ感染予防の徹底により風邪が流行しなかったことから、売上・利益ともに減少した。
- **前年同期比 売上高 +151百万円(+3.8%)、営業利益 ▲9百万円(▲3.7%)**



SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

15

次に、医療事業でございます。

このセグメントは、コロナ禍の影響を最も強く受けているセグメントでございます。バリウム造影剤の輸出、アルロイドG等の医療用医薬品、内視鏡洗浄機の拡販で、何とか売上は確保し、前年同期比増収でございました。

売上高は40億9,600万円、プラス1億5,100万円、3.8%の増収。ただし、利益面では薬価の引き下げ等もあり、営業利益は2億3,300万円、マイナス900万円、3.7%の減益となりました。

# キャッシュ・フロー

金額単位：百万円

	2021.3 2Q	2022.3 2Q	増 減
期首の現金残高	9,148	11,153	2,004
税金等調整前当期純利益	1,286	4,537	3,251
減価償却費	2,024	2,260	235
その他	873	▲ 1,414	▲ 2,287
営業活動によるキャッシュ・フロー（営業CF）	4,183	5,383	1,199
設備の支払額	▲ 5,118	▲ 3,837	▲ 1,280
その他	236	19	▲ 217
投資活動によるキャッシュ・フロー（投資CF）	▲ 4,882	▲ 3,818	1,064
財務活動によるキャッシュ・フロー（財務CF）	1,836	▲ 1,025	▲ 2,861
期末の現金残高	10,248	11,774	1,526

## ◆ 営業CF

主に業績が好調に推移したことで増加した。

## ◆ 投資CF

設備投資を既設の維持更新程度に収め、また有形固定資産取得にかかる支出も抑えられたため、減少した。



SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

16

次に、キャッシュ・フローのご説明でございます。

営業活動によるキャッシュ・フローは、その他項目に含まれております売上増による売掛金、棚卸資産増による14億円のキャッシュ・アウトがございました。しかし、高業績により、営業キャッシュ・フローは54億円と、前年同期比12億円増加しております。

投資活動によるキャッシュ・フローのうち、設備投資がピークアウトしたことによる投資活動のキャッシュ・アウトは減少しております。財務活動では、借入の返済が上回ったことから、キャッシュは減少いたしました。

これらを合計した結果、キャッシュにつきましては、キャッシュのインフローが上回り、期末現金は15億円の増加となっております。

## 主要項目推移・予想

金額単位：百万円

	2017.3	2018.3	2019.3	2020.3	2021.3	2021.9	2022.3
売上高	83,938	87,223	89,541	87,177	84,918	39,905	<b>80,000</b>
営業利益	4,551	4,690	4,404	4,015	4,304	4,356	<b>7,000</b>
経常利益	4,290	4,279	4,553	4,208	4,012	4,599	<b>7,200</b>
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,037	2,329	3,606	2,535	▲ 2,803	3,180	<b>5,300</b>

設備投資	4,636	3,771	6,891	8,403	9,567	3,837	<b>5,000</b>
減価償却費	2,877	3,005	3,189	3,686	4,243	2,260	<b>4,100</b>
研究開発費	2,909	3,217	2,951	2,898	2,487	1,168	<b>2,500</b>

(予想)



SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

18

次に、22年3月期の業績予想でございます。

右端の今期業績予想の売上高は800億円、新収益認識基準適用により減収となっておりますが、旧基準に照らしますと、900億円を上回る大幅な増収を予想しております。

営業利益は、前期比プラス62.6%の70億円、経常利益はプラス79.4%の72億円、親会社株主に帰属する当期純利益は、昨年度のマイナスから53億円へと大幅増益を予定しております。

設備投資につきましては、50億円と、前期までの大型投資からはピークアウト。減価償却は、前期末の減損効果もあり41億円と、前期に比べ微減。研究開発費は25億円で、前期比ほぼ横ばいを予定しております。

# 2022年3月期業績予想

金額単位：百万円

	2021.3		2022.3					
	通期実績		上期実績		下期予想		通期予想	
		売上高比		売上高比		売上高比		売上高比
売上高	84,918	—	39,905	—	40,095	—	80,000	—
営業利益	4,304	5.1%	4,356	10.9%	2,644	6.6%	7,000	8.8%
経常利益	4,012	4.7%	4,599	11.5%	2,601	6.5%	7,200	9.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	▲ 2,803	▲3.3%	3,180	8.0%	2,120	5.3%	5,300	6.6%

## ■化学事業：

⇒電子材料・酸化チタンを中心に堅調に推移する見込み。

有機化学品については、上期に出荷が偏ったことから、下期は大きくは伸びない。  
化粧品材料については、今下期より欧米を中心に回復しつつあり、次年度からの復調に期待。

## ■医療事業：

⇒売上は前期を上回る見通しも、利益は微減となる見込み。

■垂鉛末製造工場爆発火災事故による特別損失は、当初見込みの300百万円の予定。



SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

19

次に、今期業績予想につきまして、上期と下期の比較を少し詳しく説明いたします。

上期、下期を比較しますと、売上高はほぼ同水準を計画しております。しかし、ご覧のとおり、営業利益は上期と下期で約17億円の差が生じます。

これは、前述のとおり、医薬原薬・中間体の受託子会社で、商流品、すなわち収益を多く生む製品の売上が上期に集中して、下期は採算的に低い開発品販売が主となること、結果的に収益が上期偏重になっております。

カイゲンの医療事業は、そもそも収益が上期偏重型であることから、この2社の影響で上期と下期の差が約10億円。加えて、他のセグメントにおきましても、期後半にかけての原燃料高を予想しており、粗利率がやや圧迫されることを想定し、少し保守的に見積もった結果です。

下期に業績が少しスローダウンするような見え方になっておりますが、これら特殊要因を省けば、基本的には電子材料を中心に、上期の好調なトレンドが下期も継続する予定でございます。

# 2022年3月期業績予想

## 化学



## 医療



SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

20

最後に、セグメント別の業績予想でございます。

コロナ禍が穏やかに収束に向かうという前提ではございますが、化学セグメントの業績は、新収益認識基準の影響で減収となるものの、電子材料ビジネスを中心に堅調に推移し、営業利益率では過去水準から大きく上昇する予定でございます。

医療セグメントは、先ほどご説明しましたとおり、薬価の引き下げも予定していることから、売上は前期比やや増収を見込みますが、営業利益率は低下、業績の回復は限定的になる予定です。

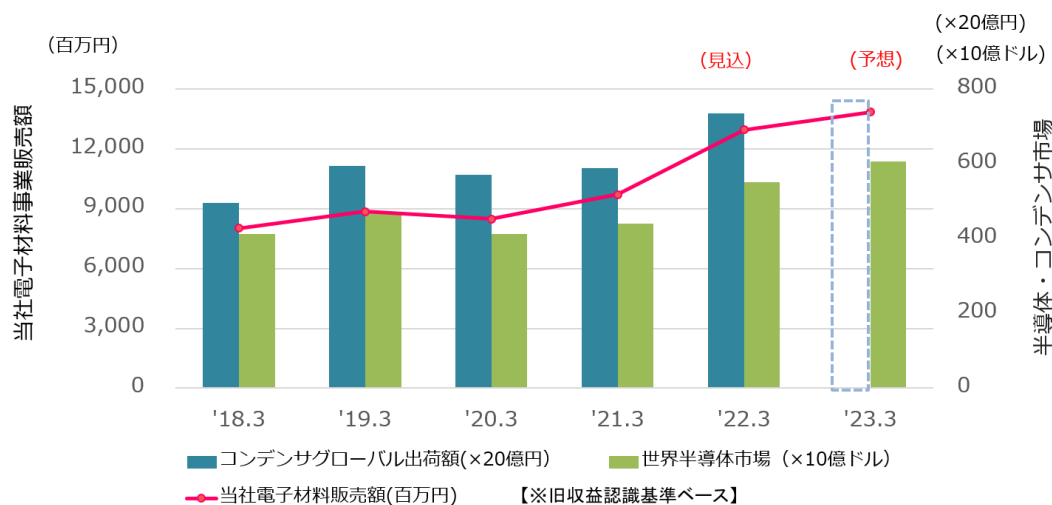
業績の説明は、以上でございます。

**司会**：ありがとうございました。続きまして、矢部社長、お願いいたします。

**矢部**：それでは、私から、トピックスについてご説明いたします。まず初めに、電子材料セグメントの見通しについてご説明いたします。



## 電子材料事業及びコンデンサ・半導体市場見通し 金額ベース



### 当社電子材料事業は、コンデンサ・半導体市場動向にリンクして伸長していく見通し

※出典元  
 世界半導体市場 : WSTS (世界半導体市場統計)、  
 コンデンサグローバル出荷額 : JEITA (一般社団法人電子情報技術産業協会) 統計

23

このグラフにつきましては、棒グラフが、緑色が半導体市場、青色がコンデンサの出荷額の推移について示しております。ちょっと単位がそれぞれ違いますので、分かりにくいかと思いますが、基本的には右肩上がりが増えていきます。

それに対しまして、赤の棒線グラフが、当社の電子材料セグメントの売上高につきまして、見込み予想を入れております。これにつきましては、収益基準は旧のもので入れております。

2011年3月期が、当社の電子材料セグメントの売上が約97億円、それに対しまして、22年3月期につきまして、今期につきましては約130億円、来年度につきましては、大きな調整がないということを前提としまして、約140億円程度と見込んでおります。

# ESGの取組みに関して

## ■当社のマテリアリティ

人々を幸せにする		ものづくりで社会の課題を解決する	
1	人材育成、成長を実感できる風土の醸成	7	環境や社会の課題解決につながる製品やサービスの創造
2	働きやすい環境をつくる	8	責任ある調達推進
3	地域社会に貢献する		
地球環境を守る		透明で強固な経営体制を築く	
4	化学物質の適切な管理、環境負荷低減、製品安全性の向上	9	取締役会の実効性を高める
5	産業廃棄物の排出量を削減する	10	リスクを把握し対策を講じる
6	生物多様性に配慮する	11	適時・適切に情報を開示する

本年9月にサステナビリティ委員会を設置し、現在、上記課題達成に向けたKPIの設定ならびにTCFDに基づく情報開示に対応できるよう、取り組んでおります。

### 【これまでの主な取り組み】

- 2005年8月 堺事業所・泉北工場LNGへ燃料転換
- 2016年6月 小名浜事業所LNGへ燃料転換
- 2020年4月 カーボンニュートラルLNG（CNL）の利用開始
- 2021年3月 CSRプラットフォーム/EcoVadis ゴールドメダル受賞
- 2021年6月 執行役員制の導入
- 2021年9月 人材育成方針の制定、人事制度改革
- 2021年10月 RSPO会員登録完了



SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

23

次に、当社の ESG 戦略についての取組みに関して、簡単にご説明いたします。

以下の4分野から、11の重要課題、マテリアリティを策定いたしました。人々を幸せにする、ものづくりで社会の課題を解決する、地球環境を守る、透明で強固な経営体制を築く。

本年9月にサステナビリティ委員会を設置し、各マテリアリティのKPIを設定し、取組みを推進しております。

当社は、既に環境負荷低減の取組みを過去から実施してきておりまして、2005年には堺地区の燃料を、2016年には最大消費量の小名浜地区の燃料を、重油からLNGに既に転換しております。

昨年は、化粧品材料製造工場におきまして、カーボンニュートラルLNGを採用いたしております。また、CSRプラットフォームであるEcoVadisでは、2020年度にゴールドメダルを受賞いたしました。

ガバナンス面では、本年から社外取締役を増員の上、執行役員制度を導入して、経営の執行と監督を明確に区分した他、人材育成の強化を目指した新人事制度改革も行ったところでございます。

# 株式の売出しおよび自己株取得について

## 【売出しの目的】

プライム市場への上場を目指す企業として、株式持合いの解消を一層推進し、流動性を高めてより多くの投資家の皆様と建設的な対話を重ね、企業価値向上に努める。

- ◆ 2021年10月12日に発表
- ◆ 2021年10月27日 2,269千株 売買成立  
(\* オーバーアロットメント分を含め発行株式総数の13.3%)

## 【自己株取得の目的】

株主還元を強化し、売出しに伴う株式需給への影響を緩和する。

- ◆ 2021年10月28日より、自己株式取得を開始  
上限株式数 900,000 株、上限取得金額 1,500 百万円

## 【今後の課題】

資本政策、事業戦略、ESG等、多方面にわたる企業価値向上に向けた経営戦略を策定・実行する。



次に、株式の売出しおよび自己株取得についてご説明いたします。

ご存じかと思いますが、10月に株式の売出しを実施いたしました。約227万株、発行株式数の13.3%となりました。

プライム市場での上場を目指す当社としましては、持ち合い株式の解消を一層推進し、株式流通量を増やし、多くの投資家の皆様に保有していただき、建設的な対話を重ねて成長していくことを目的としております。緊張感を持って企業価値向上にさらに努めていきたい所存であります。

なお、売出しに合わせまして、自己株取得も実施しております。上限90万株、金額の上限が15億円でございます。その目的は、株主還元の強化と、売出しに伴う株式需要への影響緩和でございます。

今後の課題としましては、資本政策をはじめ、ESGなど、今後の企業価値向上に向けた経営戦略を迅速に策定し、実行していきたいと考えております。

# 株主還元



剰余金の配当につきまして当社は、株主の皆様への安定した利益還元を経営の最重要課題のひとつと位置づけたうえで、財務体質の強化と積極的な事業展開に必要な内部留保の充実に努めるとともに利益動向や経営環境を勘案し、年2回の配当を実施することを基本方針としています。

中期経営計画『SAKAINNOVATION 2023』では、総還元性向30%以上を目標として取り組んでいます。

2022年3月期については、中間35円、期末35円の年間70円とする予定です。



SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

25

最後に、株式還元につきましてご説明いたします。

現在、走っております中期経営計画、SAKAINNOVATION 2023 では、総還元性向 30%以上を目標としております。

今期は、中間で 35 円、期末で 35 円、合計 70 円の配当を予定しており、先ほど説明した自己株式取得を加味いたしますと、総還元性向は 50%になる見通しでございます。

なお、自己株取得を除く配当性向につきましては、22%程度になる見通しでございます。

以上、簡単ですが、ご説明申し上げました。よろしくお願いいたします。

司会：ありがとうございました。

## 質疑応答

---

**司会**：これから質疑応答に移ります。

ご質問をご希望の方は、ご視聴画面の下側にございます、手を挙げるボタンを押してください。挙手された方につきましては、私から順番にご指名をいたします。順番が来ましたら、こちらからミュート設定を解除いたしますので、ご質問を口頭にてお願いいたします。なお、音声でのご質問が難しい場合には、Q&A 欄にご質問内容をご記入ください。音声での質疑応答が終了した後に、投稿されたご質問の中から私が選択してご回答申し上げます。

**質問者 1**：よろしく願いいたします。3点お伺いしたいのですが。

一つ目は、電子材料のところです。上期の営業利益率が、17.5%ということで非常に高いのですが、この理由と、これが今後も継続可能なかどうかというところを教えてください。

あと、この電子材料は、上期売上 51 億円ということで、これは新しい基準だと思いますけども。後ろの数字と合わせると、下期は 65 億円ぐらいを見込まれているように見えるのですが、この電子材料の下期の売上はそういう見方でいいのか、まず 1 点目、これを教えてください。

**矢部**：矢部ですけども。旧基準で売上を年間約 130 億円と、今見ております。それを、先ほどの新基準に換算しますと、約 20 億円減になるので、110 億円です。

**質問者 1**：なるほど。

**中西**：旧基準では上期が 61 億円ぐらいですね、新基準では 50 億円です。

**矢部**：ですから、新基準で下期が 60 億円ぐらいですね。

**質問者 1**：なるほど。分かりました。上期対下期で 10 億円ぐらい増える、そういう見方で分かりました。

**矢部**：それと、利益面につきましては、当然本当はもう少し高いほうが良いと思っているのですが、少しずつやってきたことが実ってきているということで。

減損したことも、まだあまり公言はしていないのですが、これから売れるものについて、設備投資して、増産販売するものについては減価償却のところから軽くなりますので、収益は上がっていくと考えております。



**質問者 1**：そうしますと、これは、下期はちょっと落ちるということなのかもしれないのですが、この十何パーセントという利益率、これは多分過去最高じゃないかなとも思うのですが、こういった利益率は、ある程度来年度以降も出すことは可能という、そういう認識でよろしいですか。

**矢部**：はい。今のところ、そう考えております。

**質問者 1**：分かりました。ありがとうございます。二つ目が、化粧品原料のところですけども。また、南アフリカのほうで、新しいものがはやってきているということで、ちょっと不安材料もあるんですけど。

ただ、普通に行けば、これは来年度、結構動くかなと思っておりまして。欧米での動きが出てきているというコメントもあるのですが、今、どういう状況になっているのかというところとですね。

あと、これはそもそもの成長ストーリーとして、いわゆる石油系からのシフトみたいな話があったと思うのですが、それが今、どういう状況、どういう見通しになっているのか、これに関してご説明いただけますでしょうか。

**矢部**：おっしゃるとおりで、南アフリカ発の新型ウイルスですね。その情報が入る前は、ヨーロッパ、アメリカを中心に、だいぶ回復傾向にあることで、海外からの受注はかなり戻ってきてつつある状況でございます。従いまして、下期についてはある程度回復すると見ております。

ただ、今回出てきたようなものが、今後、どう影響するかについては、今のところまだ分かっておりませんので、そういうリスクもあるということで考えておかないといけないかなという状況です。

それと、有機系のものから無機系のものにシフトする流れについては、基本変わっていないという認識でございます。

**質問者 1**：すみません。これは、コロナ前と比べると、この上期の売上水準は大体どれぐらいの規模感になっていて。どうですか、南アフリカを除いた場合に、例えばこの下期とか、来年度は、どの程度まで戻るようなイメージだったのか、もし可能であれば教えてください。

**中西**：売上高で申しますと、前期はほぼコロナの影響が出ておりますので、ほぼほぼ前期の上期とは変わらないですね。ただし、収益面では、少し設備等々もしましたので、半減していますね。前上期と比べますと。

**質問 1**：利益が半減。

**中西：**はい。営業利益ベースでは半減しております。

**質問者 1：**なるほど。これは、売上はコロナ前と比べて、どれぐらいのレベル感ですか。

**中西：**コロナ前でいきますと、もう半分以下です。

**質問者 1：**半分以下と。それが、もし南アフリカがなければ、なければってあれですけど、どれぐらいまで戻るような感触だったのですか。

**矢部：**おおよそ、コロナ禍以前と同等、場合によっては少し上回るのではないかとぐらいで見えていました。

**質問者 1：**なるほど。分かりました。ありがとうございます。すみません、最後、3点目ですけども。

堺商事さんと、シナジーといいますか、今後その辺をどう考えておられるのか、その辺に関してコメントをいただけないでしょうか。以上です。シナジーといいますか、資本関係といいますか。

**中西：**一つは、堺商事、私どもの今、業績を牽引していると申し上げました電子材料の、特に原料面での調達は、ほぼほぼ堺商事を通しての購入になっております。

そういう意味で、このところにおいてはシナジーというよりは、非常に重要なパートナーという位置付けです。

あと、それと販売面につきましても、電子材料に関しましては、かなりのお客様に関して、堺商事が、私ども堺化学の販売代理店として機能しております。

**質問者 1：**なるほど。分かりました。どうもありがとうございました。以上になります。

**司会：**ありがとうございました。では、続きましてお願いいたします。

**質問者 2：**私も3点あるのですが。

一つは、電子材料事業の中で、大きく分けると誘電体と誘電体材料がありますが、それぞれ伸び率、この平均並みという感じなのか、それぞれ結構、違う感じで、営業利益に与える影響もだいぶ違うのか、その辺について、少し詳しくいただければと思います。

**中西：**伸び率に関しましては、誘電体も誘電体材料も、両方とも同じような伸び率を示しております。そういう意味では、利益に関しましては、特に大きな偏りはございません。

**質問者 2：**中計の中では、結構大きく投資をされる計画になっていたと思うのですけれども。ほぼほぼフル稼働ということで、次の投資はどんな感じになりそうですか。

**中西：**今のフル稼働と申しあげましたのは、設備投資ですね、この2~3年の設備投資以前の設備がほぼフル稼働になっております。

この2~3年、一部というか、かなり減損はしたのですが、その部分は、まだまだこれからの新しい需要に向けての設備投資ということで。特に、誘電体材料に関しては、一番新しい工場はまだ稼働しておりません。

誘電体に関しましては、徐々にハイエンドの製品に関しての工場の稼働が始まっております。そういう意味で、私ども申しあげました、ほぼフル稼働というのは、既存設備でございまして、この大型投資に関しての設備による稼働キャパは、まだ持っております。

そういう意味で、今おっしゃった追加の投資というのは、この新しい設備の稼働状況を考えつつ、もう少し先の話になるかなと考えています。

**質問者2：**なるほど。当面は今ある、既に終わった投資で十分対応できると。

**中西：**はい。

**質問者2：**その場合ですが、償却も増えていくとは思いますが、同じような利益率が継続できるという見通しでよろしいでしょうか。

**矢部：**先ほどもちょっと申しあげましたが、3月期に70億円の減損をしていますが、その稼働を、これからまだキャパがありますよと申しあげたのは、ほとんど減損していますので、そういう意味での減価償却のところの原価アップはございません。

人員の配置等もほぼ終わっている状態と考えていただければいいので、固定費の部分の増えは、それが稼働したからといってほぼないと認識しております。

**質問者2：**そういうことですね。

**矢部：**そこは変動費との差の分が利益に貢献できるものと、今のところ考えております。

**質問者2：**分かりました。2点目は、酸化チタン・亜鉛製品のところですが。同じように、サブセグメントごとで、酸化チタンと酸化亜鉛と化粧品材料があつてですね。

化粧品材料は、コメントいただいて、あまり業績には寄与していないという感触だと思いますが、酸化チタンと酸化亜鉛と分けると、大きなところは酸化チタンの増収増益が大きいということでしょうか。

**中西：**はい。おっしゃるとおりです。

**質問者 2：**今、原料の鉱石とかは、さらに上がっているような感じですが、今、打ち出している値上げとかで、下期以降も十分カバーできるということですか。

**矢部：**第1次値上げがほぼ終わりました、さらに今、鉱石、それから円安、重油高ということも、燃料高ということもございますので。一応、来年の1月ぐらいをめどに、第2次値上げの、今、交渉に入る状況になってきております。

**質問者 2：**そうすると、この下期は、ちょっと取り返すのは難しいかなという感じですか。

**矢部：**下期については、鉱石については、もう在庫分がございまして、その分は値上がり分というのはないと。ただし、重油の分については、それなりに効いてくる可能性があります。その辺りと、値上げとの、どちらが勝つかというような状況で、プラスになるかマイナスになるかは、実際のところこれからですね。年内ぐらいは、まだまだ利益率を確保できると思っています。

**質問者 2：**なるほど。需要面は、酸化チタンも酸化亜鉛も、上期の状況が下期も続くということでもよかったですか。

**矢部：**はい。酸化亜鉛につきましては、タイヤ関係が中心でございますので、ちょっと自動車の生産との兼ね合いもありますが、今のところ大きな調整はないのではないかなと考えております。

**質問者 2：**分かりました。3点目は、それ以外の事業一般ということになります。これまであまりお見受けしなかったような利益率にそれぞれ上がっていると思いますが、これの主な要因は、どういうところにあるのでしょうか。

**中西：**そういう意味では、その2年で随分ピックアップしたのは樹脂添加剤ですね。特に、昨年度から少し上がる気配はありましたが。特に、今期に関しましては、国内需要が非常に堅調であったということと、それからわれわれ、汎用品に関しては、かなり値上げもお客様にはご無理を申し上げて、値上げを許容していただいたのも大きいです。

海外は、少しでこぼこはありますが、総じて堅調で、特に海外のローカル向けの安定剤が非常に高収益、好採算を続けているのも一つの大きな要因です。

**質問者 2：**海外に関しては、下期について新型コロナの影響は、特にないと思っていればいいですか。

**中西：**特にベトナムがかなり長期にわたってロックダウンがありまして、この9月、10月、11月ぐらいは、少しやっぱりしんどいですね。下期は、これが収束してくれば、何とか持ちこたえるかなとは思っていますが、これもちょっとコロナの状況いかんかなと思っています。

**質問者 2**：あともう一つ、触媒も大きく回復していると思いますが、こちらの要因は何でしょうか。

**矢部**：今年度は、脱硝触媒で中国向けの大型物件の出荷が始まっています、その利益貢献が昨年に比べると大きいです。

それから、ニッケル触媒も予定していた大口のお客さんの立ち上げが遅れていまして、売上高的にはちょっと厳しい面もございますが、利益面では多少改善しているというような状況でございます。

**質問者 2**：この中国向けの大型物件は、継続性がありそうですか。それとも、スポットでここだけ取れましたみたいな感じですか。

**矢部**：下期も含めて今年度、来年の3月まではもう確定しております。4月以降については、その物件については、いったん終わりです。

**質問者 2**：分かりました。ニッケル触媒の水添の大型のところは、きょう同時に説明会をやっているところかなと思うのですが。

下期から大幅に償却増で減益みたいな計画を出されているので、徐々に立ち上がっていくかなと思っています。以上です。

**矢部**：ありがとうございます。

**質問者 2**：どうもありがとうございます。

**中西**：ありがとうございました。

**司会**：ありがとうございます。それでは、チャットでご質問をいただいておりますので。では、それぞれ読み上げてまいります。

まず、一つ目のご質問です。今期の増益要因を、外部環境の好転と内部自主努力に分けると、ざっくり何対何ぐらいのイメージになるでしょうか。また、内部努力要因としては、価格転嫁以外にどのようなものがありますでしょうか、というご質問をいただいております。

**矢部**：内部努力としましては、どの会社さんも一緒だと思いますが、いろいろと一般管理費、出張経費だとか、そういうものはかなり圧縮した状態が続いておりますので、そういうものはプラスになっています。



あと、事業としましては、先ほど中西が申しましたが、樹脂添加剤につきましては、弊社内で、国内で生産しているものについては、コストダウンということで、もうできる限りのことはやってきたということで、利益面にも貢献したものと考えております。

あとは、やはり電子材料等につきましては、開発品がようやくお客様に本格的に出荷できるようになったというところの利益上乘せも大きいかと思えます。

**司会：**では、次のご質問に移ります。

本年9月3日に公表しました、酸化亜鉛が新型コロナウイルスの感染症を低下させることを確認というリリースにつきまして、アップデートがあればよろしくをお願いします。

アップデートがない場合でも、当社のスタンスや今後の方向性などについてコメントをいただけますようお願いします、というご質問です。

**矢部：**これにつきましては、どういうアプリケーションに展開していくかということについて、現在いろいろとサンプルも出して調査しているところでございます。

いろいろとフィルム関係であるとか、液状のコーティング剤の関係もございまして。あと、銀が結構抗菌剤として使われておりますが、銀の一部代替とか、そういうところでの展開もあるのではないかと考えております。

とにかく、いろんな、今はお客様、業界にサンプル対応しております、今後、どういうところが有望かを探って、さらに進めていきたいなというところでございます。

**司会：**以上、ご回答申し上げました。では、三つ目です。

今般、酸化チタンの値上げを発表しましたが、今回の値上げで十分とお考えでしょうか。また、他に値上げを検討するような化学製品があれば教えてください、というご質問です。

**矢部：**酸化チタンの第2次値上げですね。これを今発表しておりますが、取りあえずこれを何とか達成できるようにやっていきたいなと思っています。その上で、原燃料の上がり方等を考えた上で、その次のことについてはあるかないかという状況かと思えます。

それから、樹脂添加剤でも、中国から原料を買っているものが結構あり、電力不足ということで、ものがなかなか入ってきづらい状況になってきております。

そういう意味では、そのようなものを中心としまして、値上がっているものについては当然価格転嫁を、先ほど中西も申し上げましたように、かなり強行にやっているような状況でございまして。

**司会：**では、続きまして、四つ目のご質問です。

営業利益率が低位な範囲にとどまる事業の中期的な方針をご教示ください。具体的には、酸化チタン・亜鉛製品、触媒セグメントです、というご質問をいただいております。

**矢部：**酸化チタンにつきましては、現在は市況環境が良くなって、そこそこの利益を上げられるようになってきたということですが、

今後どうするかについては、私どもの小名浜事業所の中核事業なので、今、慎重にいろんなことを検討している段階で、まだ正確に申し上げられることはないのですが、とにかく、コストを削減していくことを中心に考えております。

亜鉛製品につきましては、亜鉛末が爆発事故を起こしましたが、こちらは非常に採算が悪かったということで、現在はもう、それは撤退しております。

酸化亜鉛につきましては、それなりの利益率、それと、先ほどもご質問がございましたように、抗菌とか抗ウイルスへの用途展開を図ることで、利益率を上げていきたいと考えております。

触媒セグメントにつきましても、ニッケルの採算が悪いですが、これにつきましては工場の統廃合で利益率の改善を図っていく予定でございます。以上です。

**司会：**以上、ご回答申し上げます。

最後に、先ほどのご質問と若干重なりますが、電子材料につきまして、今後、減損済みの新設備が本格稼働した場合、利益率は上期の17%よりもさらに上がる可能性があるという理解でよろしいでしょうか、というご質問です。

**矢部：**そういうつもりでお答えしたつもりなので、間違いはないと思っています。

**司会：**以上、Q&A、チャットによるご質問にお答え申し上げます。ご質問は、全ていただいたようでございます。それでは、ちょうど予定しておりました16時半がまいりましたので、これにて質疑応答を終了いたします。

以上で、堺化学工業株式会社、2022年3月期中間決算説明会を終了いたします。本日は、ご参加いただきまして、誠にありがとうございました。

今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。それでは、失礼いたします。

**矢部：**ありがとうございました。

[了]

---

## 免責事項

本資料は、情報の提供を目的とし、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成したものであり、リスクや不確実性を含んでいるため、実際の業績はこれと異なる結果となる可能性があります。また、化学事業のサブセグメントの数値は任意で公表しているものであり、監査を受けておりませんので、参考値とご承知おきください。ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に依存して投資判断されることにより生じうるいかなる損失に関して、当社は責任を負いません。